

日野市立教育センター所報

教育センターだより



第44号 平成30年12月21日発行

日野市立教育センター

○日野市立教育センター

191-0042

東京都日野市程久保 550 番地

代表電話 042-592-0505

F a x 042-592-1148

午前8時30分から午後5時15分

U R L : <http://www.hino-tky.ed.jp/center/>

○わかば教室

191-0042

東京都日野市程久保 550 番地

直通電話 042-592-0863

午前8時45分から午後4時

～現場の教育実践に役立てる教育センターに～

I 調査研究部

調査研究部では、日野市の当面する教育課題である「理科教育推進の研究」「郷土教育推進の研究」を行っています。

1 理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）

教科等教育係

日々の授業を「ひのっ子が主体となる理科授業」とするために、毎年夏季休業中を中心に理科に関する教員研修が実施されています。今年度も富士電機研修、多摩動物公園研修、理科実技研修の3つの研修が実施されました。

（1）富士電機研修＜講師：富士電機株式会社 早瀬 悠二 博士＞

—「プログラミング体験授業（Arduino を用いた入出力制御）」—

- ① 論理的思考を考える
- ② プログラミングを体験する

マイコンにプログラミングした指示を送り、一つのスイッチを入れることで幾つもの動きが実施されるコンピュータ制御を体験しました。

- ・ LEDライトを光らせよう
 - ・ ブザーで音楽を鳴らそう
 - ・ 光センサーの数字を読み取ろう
- 発展(組み合わせてゲームを作ろう) LED ライト+ブザーで音楽+光センサーで制御



（2）多摩動物公園研修＜講師：多摩動物公園 山崎彩夏氏他動物解説員、昆虫飼育員の皆様＞

前日からの台風接近で午前「動物の体」研修は中止になり、午後の「昆虫スキルアップ研修」のみの実施となりました。

- ① 昆虫についての解説
- ② いろいろな虫の触り方

ナナフシ、カマキリ、ゴキブリ(森に住む種類)、コオロギについて、それぞれの虫に合わせた触り方を学び、実際に手にとって触れ合いました。

③ アゲハチョウの飼い方ワンポイントレッスン

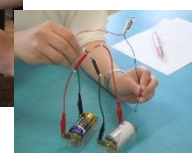
- ・ 小学校で飼育する「モンシロチョウ」も飼い方は同じ。
- ・ 食草が異なるので、飼育するチョウに合わせて栽培しておく。
- ・ 体験：「チョウの幼虫の移動」「チョウの成虫の餌やり」



（3）理科実技研修＜講師：理科ワークショップ講師の先生方＞…日野市立旭が丘小学校にて＜午前中は採用1年次の小学校教員を中心に実施＞

- ・ マッチ・アルコールランプ・カセットコンロの使い方
 - ・ 顕微鏡の使い方
 - ・ 乾電池の直列回路・並列回路のつなぎ方
 - ・ 実験器具の使い方(メスシリンダーやピペット、上皿天秤)
 - ・ 最後に「理科の授業づくりについて」専属理科支援員の大成先生の講話
- ＜午後は一般の先生方を対象に、2学期以降の授業単元より実施＞

- ・ 4年生「わたしたちの体と運動」
- ・ 6年生「水よう液の性質」・5年生「物の溶け方」
- ・ 5年生「電磁石の性質」



2 郷土教育推進研究（郷土教育推進研究委員会）

ふるさと教育係

郷土意識を育む指導の在り方
～七生地域を中心とする地域素材の教材化を通して～

古代から人々が暮らしていた七生地域に、明治22年(1889)神奈川県南多摩郡七生村が誕生しました。今年は、ちょうど130年目に当たります。歴史ある七生地域に関して児童向けの冊子を作成することで、興味をもって七生地域や日野の歩みを見つめてもらいたいと考えました。冊子が、日野市総合教育大綱に謳われている「**郷土を愛する日野人として成長し、地域を創り上げるつながりをつくります**」の具現化に役立ってほしいと思います。

(1) 今年度の研究

- ① 児童向け冊子「歩こう 調べよう ふるさと七生」の作成
- ② 冊子を使った授業づくりなど、冊子活用方法の研究
- ③ 七生地域の教材化のためのフィールドワーク研修
「夏季郷土教育研修会」

(2) 冊子「歩こう 調べよう ふるさと七生」の作成

- ① 冊子の活用で目指す児童像
 - 郷土に対する理解を深め、愛着を高めている。
 - 課題を発見、追究し、表現している。
 - 自らの生き方を考え、社会参画の意欲を高めている。
- ② 基本方針
 - 小学校3年生以上が活用することを念頭に置く。
 - 写真や図を多用し、児童の興味・関心を高めるようにする。
 - 七生地域の古代から現代までの人・こと・物を題材に取り上げる。
- ③ 楽しく学習できる工夫

キャラクターを見開きページごとに配し、関連事項がある他のページへと案内したり、豆知識を紹介したりする。



表紙



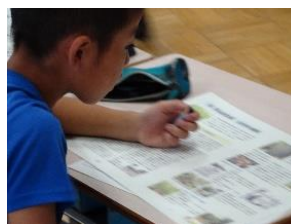
ナナのすけは関連
ページのガイド役



マメぴよんは
マメ知識を伝授

④ 年間計画

- 4月～8月・・・取材、資料収集、原稿執筆
- 9月～1月・・・校正作業
- 3月・・・・・・冊子完成、配布



熱心に学習に取り組む
平山小学校の4年生



(3) 冊子活用方法の研究（9月～12月）

総合的な学習の時間での活用（4年）10月

- 「平山おかぼ」のページを使用する。
- 単元名『平山おかぼ 七生村の農業』 8時間扱い
- 単元の導入（1／8）で資料を活用する。

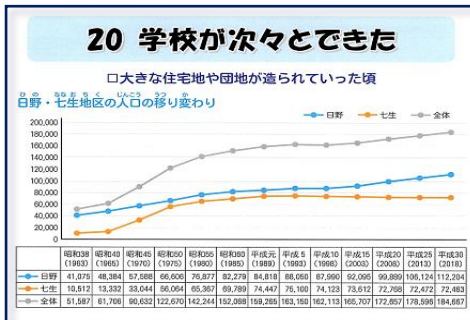
- 本時のねらい「資料から読み取れる情報を整理し、課題や疑問を発見し、一人一人が学習問題を設定することができる。」
- 児童は、資料に興味をもち、時間をかけてじっくりと読んでいた。
- 一人一人が疑問や課題を見出し、それを短冊に書いて黒板に掲示した。
- 掲示された短冊を使い、児童の手でグルーピングをすることができた。

◆ 授業後の研究協議を通じて ◆

- あらかじめ学級の学習問題を設定しておき、冊子を見て個別に課題を設定させるとよかった。
- 本教材は、4年の用水、5年の流通、6年の歴史の学習にも生かせる。
- 単元の終末で、自己の生き方につなげて考えたり、地域に発信したりできるとよい。

社会科での活用 (3年) 12月

～学習活動の予定～



- 「学校が次々とできた」のページを使用する。
- 単元名『学校が次々とできた』 7時間扱い
- 導入で、日野・七生地域の人口の移り変わりのグラフ(左図)を見て学習問題を考える。
- 昭和40年(1965)以降の学校数の増減に着目する。
- 住宅開発が行われた当時を知る地域の方をゲストに招き、お話をうかがう。
- 自分たちが住む「ふるさと七生」をどう発展させていきたいかを考え発表する。

南平小学校3年生が使う学習資料 (一部分)

その他の活用方法

- 3年生の社会科見学(市内巡り)の事前学習に用いる。
 - 長期休業中の自由研究の事前指導に用いる。
 - 親子で冊子を読み、七生地域を訪ね歩く。
- (4) 郷土教育夏季研修会(日野市教育委員会夏季教員課題別研修会と共催)
- ① 目的 七生地区を実際に歩くことを通して歴史に触れるとともに、史跡や歴史遺産の教材化の手法を学ぶ。
 - ② 実施日 平成30年7月25日(水) 9:00~16:30
 - ③ 日程 午前 (フィールドワーク) 高幡不動尊~旧道~南平八坂神社~南平小
午後 (南平小で室内研修) 事例発表、講義、演習
 - ④ 研修内容

- ◆午前 南平古道を中心に歩いて地域の地形、地名、歴史を探りました。
- ◆午後 午前中のフィールドワークの振り返りや、各講師からの講義、演習を行いました。

午後の研修内容

- 七生の自然
- 南平の教材化
- 七生の歴史
- 昨年度の研究授業事例発表



研修に参加した先生方からは、「これからの地域学習の実践に向けたヒントを得ることができた。」「小学校で実践できる地域学習の豊かさに驚いた。」などの感想をいただきました。普段は気が付かないところにたくさんの教材があることを学ぶ機会となりました。

(5) 終わりに

以前、市内の小学生たちに、七生地域の本を作っていること、見て読んで興味が高まる本にすること話をしました。たくさんの児童が、「すごく楽しみ!」と、目を輝かせていました。冊子活用の創意・工夫によって、さらに児童の目が輝き、豊かな学びになることを願っています。

Ⅱ 研修部

教職員研修係

研修部では、日野市教育委員会学校課が計画した研修事業を支援する業務を行っています。

（１）若手教員育成研修（１・２・３年次）

研修担当所員は若手教員が在籍する学校を訪問し、授業観察及び指導を行っています。

＊１年次教員の授業観察……主な指導の観点は、学習指導案が適切に作成されているか、授業での説明・発問・板書が分かりやすいか、児童・生徒と良好なコミュニケーションがとれているかなどです。担当所員は、よかった点や課題を示し、次の授業に向けた改善策を話し合いながら指導にあたっています。２回目（９月頃）の授業観察では、校内におけるＯＪＴによる指導もあり、落ち着きや安定感が感じられ、授業の流れもより円滑になってきています。

＊２年次教員の授業観察では……授業のねらいが明確で、授業の流れにメリハリをつけ、山場を明確にした授業展開が行えるよう具体的に指導しています。

＊３年次教員の授業観察では……これまでの課題を踏まえ、対話的で、深く考えさせる実践的な授業を目指し、外部との連携や学校の組織的な動きにも触れながら指導にあたっています。



（２）夏季全体研修会

７月２４日、日野市民会館大ホールで日野市教育委員会夏季教員研修の全体研修会が行われました。教育センター所員は全体研修会の開催に向け、日野市教育委員会と協力して、立看板の準備、受付名簿の作成、資料の準備、及び当日の受付を行う等の支援を行いました。

（３）夏季に実施される半日単位の若手教員育成研修（２・３年次）

７月２７日に日野第五小学校を会場として２・３年次の若手教員育成研修会が行われました。

＊２年次教員（午前）……「授業リフレクション」は、一学期に実践した事例（授業）を各自発表し、授業展開の方法や教材教具の工夫等についてグループに分かれ協議を行いました。担当所員は、グループ協議に参加し、発表事例の授業や児童・生徒理解の悩み等について指導助言と励ましを行いました。



＊３年次教員（午後）……最初に日野市発達・教育支援センターの業務や子ども家庭支援センターの業務などについての講義を受け、次に保護者との対応についての講義と演習を行いました。演習では３年次教員が４人程度のグループに分かれ、担当所員は保護者として、３年次教員は担任の先生となり、ロールプレイに臨みました。実際の対応場面に近い形で留意点や配慮すべきことなどを助言しました。



（４）教育課題研修会

夏季休業中に実施された、郷土教育、食育研修、人権教育、夏季休業中公開研修会、特別支援教育、理科実技、動物の見方、昆虫スキルアップ、がん教育に関する研修などの研修会の受講申込みの取りまとめ、受付名簿の作成、さらに当日の受付業務などの支援業務を研修部の担当所員が行いました。

Ⅲ 相談部

【適応指導教室「わかば教室」】

学校生活相談係

教育センターの相談部は、学校生活相談係が「適応指導教室（わかば教室）」の運営と「学校生活相談（主に長期欠席・不登校児童・生徒について）」を行っています。

1 学校生活相談

学校生活相談係は様々（心理的・情緒的等）な要因によって、不登校や登校しぶり等の長期欠席の状況にある児童・生徒を適応指導教室「わかば教室」（以下「わかば教室」という。）で受け入れ、学習や生活の支援及び指導を行っています。

「わかば教室」の役割は、通室生が在籍校で健康で明るく、一人一人が安全で安心して意欲的に学習や行事などに取り組むことができるようになることを目標として、「わかば教室」での生活を通して安心して日常の生活がおくれるように、時間をかけて丁寧に支援・指導し、学校に復帰できるようにすることです。

そのために「わかば教室」では、通室者の心のケア（精神的安定）、学力（学習力）向上、体力増進、社会性の育成等を図るため、一人一人に応じた支援・指導を心掛けています。また、相談活動（定期的・随時）を充実させ、SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）や行事を行う中で、人間関係を深め、社会的な実践力を培い、児童・生徒の活力向上（心と身体のエネルギーを高める）を図り、学校復帰を目指した活動に取り組んでいます。

（１）学校との連携について

児童・生徒が抱えている様々な課題に対応していくためには、学校・保護者・関係機関と連携して行くことが欠かせません。

「わかば教室」では、市内各小・中学校と連携し、児童・生徒の生活改善と学校復帰に取り組んでいます。そのために各学期に「適応指導教室連絡会」を設け、通室している児童・生徒が在籍する学校の管理職や担任及びコーディネーター等の先生と面談を行い、情報交換を実施しています。

さらに、前期と後期に分けて「学校訪問」を行い、登校支援コーディネーターがまとめた、各校から提出された適応状況調査をもとに情報交換を行っています。

また、児童・生徒の通室状況については、毎月「通室状況報告書」等を作成し、学校との連携を密に図っています。

（２）「わかば教室」の行事について

「わかば教室」では、児童・生徒の社会性や集団適応能力の育成のために、学期ごとに様々な行事を行っています。

遠足、お茶会、図書館訪問、老人ホーム訪問、社会科見学、学習発表会（音楽会）、更には誕生日会、収穫祭と調理実習、スポーツ大会など、児童・生徒の自主、自立、社会性を育むことを意識しながら計画・実施しています。



春の遠足（多摩動物公園）



お茶の作法の学習



お茶会（お茶の先生宅）



七夕飾り作り



畑での収穫



社会科見学 (府中郷土の森)

2 適応指導教室「わかば教室」通室の状況 (体験通室者含む)

平成 29 年度	5 月 1 日	小学生	7 人	中学生	19 人	合計	26 人
	11 月 1 日	小学生	14 人	中学生	47 人	合計	61 人
	3 月 25 日	小学生	17 人	中学生	58 人	合計	75 人
平成 30 年度	5 月 1 日	小学生	10 人	中学生	36 人	合計	46 人
	11 月 1 日	小学生	13 人	中学生	47 人	合計	60 人

日野市も不登校児童・生徒が毎年出現していますが、中には「わかば教室」に通室し、心と身体のエネルギーを高め学校に復帰する児童・生徒がいます。また、その後上級学校などへ進学した生徒が元気に通学しているという報告も入ります。学期・学年の変わり目は学校に復帰できるよい機会です。このような機会を逃さないように、児童・生徒の小さな変容を大切にし、生きる力を育み、学校復帰に繋げることができるように、学校や保護者及び関係諸機関と連携を図っていきます。

3 不登校改善へ向けての取組み

(1) 適応状況調査

不登校問題の改善をめざす「日野サンライズプロジェクト」の提言を受けて、市内各小中学校では適応状況調査を実施しています。適応状況調査は、各学校で作成し、教育委員会及び教育センター登校支援コーディネーターに報告されます。

(2) 適応状況調査の活用

登校支援コーディネーターは、適応状況調査を集約して出席状況を各学校に知らせ、学校ではその児童・生徒の状況を把握し、家庭への働きかけや関係機関への相談のタイミング等の参考にしている。このように関係機関同士が連携・協力して取り組めるよう図っています。

(3) 適応状況調査から見えてくる不登校の理由 (100 日以上欠席者の主な欠席理由)

適応状況調査から次のような不登校の理由が見えてきました。

- ① 集団生活への不適応 (約 25%)
- ② 家庭環境の問題 (約 20%)
- ③ 発達障害にかかわること (約 5%)
- ④ 生活リズムの乱れ、体調不良等 (約 50%)

(4) 不登校の未然防止に向けて

不登校の未然防止は、子供の表情や言動の変化に気づき、その背景にある悩みや困り感を丁寧に聞き取りながら、気持ちを軽くするためにはどうすればよいかを一緒に考えるところから始まると言えます。

Ⅳ 登校支援コーディネーター

(1) 適応状況調査について

① 適応状況調査の活用

登校支援コーディネーターは、市内小中学校が「日野サンライズプロジェクト」に基づき作成した適応状況調査を集約し、定例の生活指導主任研修会をはじめ、日野市適応指導教室（わかば教室）日野市発達・教育支援センター（エール）等へ情報提供し、関係機関相互の連携・協力の資料として活用されるよう図っています。

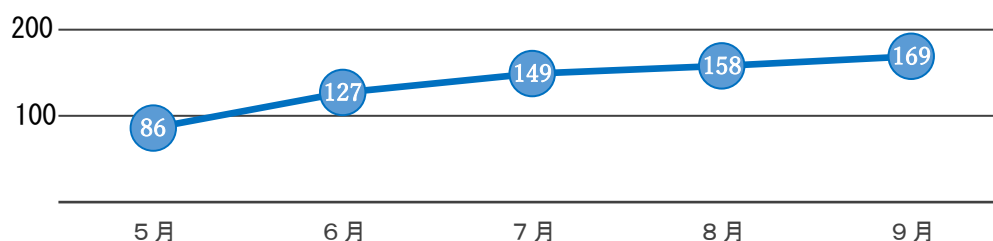
② 適応状況調査9月分までの集計結果

ア 小学校における30日以上欠席者は47名（市内小学生の約0.5%の出現率）

イ 中学校における30日以上欠席者は122名（市内中学生の約2.8%の出現率）

ウ 小学校、中学校の30日以上欠席者は合計169名（市内全小中生の約1.2%の出現率）

③ 本年度5月から9月までの30日以上欠席者数（小・中合計人数）の推移



〔注〕6月から7月にかけての増加傾向が顕著。この時期の適応状況記述欄を読むと、体調不良の記述が多くみられる。この時期を乗り越えることができれば、長欠はかなり減少するのではないかなと言える。したがって、この時期の細かい児童・生徒の見とり、家庭との連絡、児童・生徒との面談等が有効であると思われる。

(2) 各月適応状況調査記述内容の集約を通して

① 長期欠席者の中には、スマホやオンラインゲーム使用による不規則な生活リズム、昼夜逆転傾向が多い。この傾向は小学生にも移行しつつある。「暇つぶし」が「生活の中心」になっていく傾向がある。

② 集団による生活を苦手（不適応）とする児童・生徒が増えていく傾向にある。その中には発達障害に起因するものもあり、医療機関との関係が増えてきている。

③ 学校と関係諸機関（わかば教室、エール、子ども家庭支援センター、児童相談所等）との連携を必要とするケースが増えてきている。

(3) 適応状況調査の集約を通じた提言

① 「早寝」「早起き」「朝ごはん」による生活リズムの回復を図る。

② スマホやオンラインゲームの過度な使用を防ぐ指導法を学校、児童・生徒、保護者が共同して工夫する。

③ 不適応や発達障害への理解を深め、道徳・特別活動等一人一人を生かした授業や学級指導の方法を工夫する。その一つに、学習指導にUDを取り入れるなどする。

④ 学校、保護者、関係諸機関の連絡体制を構築し、円滑な情報共有を図る。